隠岐ユネスコ世界ジオパークについて

隠岐ユネスコ世界ジオパークを知る

“神話のふるさと”として知られる島根県。

隠岐諸島は、島根半島の沖合40～80kmの海域にあります。

松江市内の港からはフェリーで片道2時間半ほど。
人が暮らす4つの島と多数の無人島で構成され、
どこへ行っても息を呑むほどの絶景に出会えます。

世界ジオパークに認定されたのは2013年のこと。

評価されたのは、
地形や地質資源だけではありません。

海や山の豊かな生態系、固有の動植物、
漁業や牧畜といった島人の営み、
自然と人が共生してきた歴史ー。

隠岐をかたちづくる様々な要素が
唯一無二の貴重なものとして認められたのです。

隠岐ジオパークは、そんな多様な豊かさを体感できる場所。
この島に訪れた瞬間から、地球を知る冒険が始まります。

隠岐ユネスコ世界ジオパークを知る

大地の成り立ち

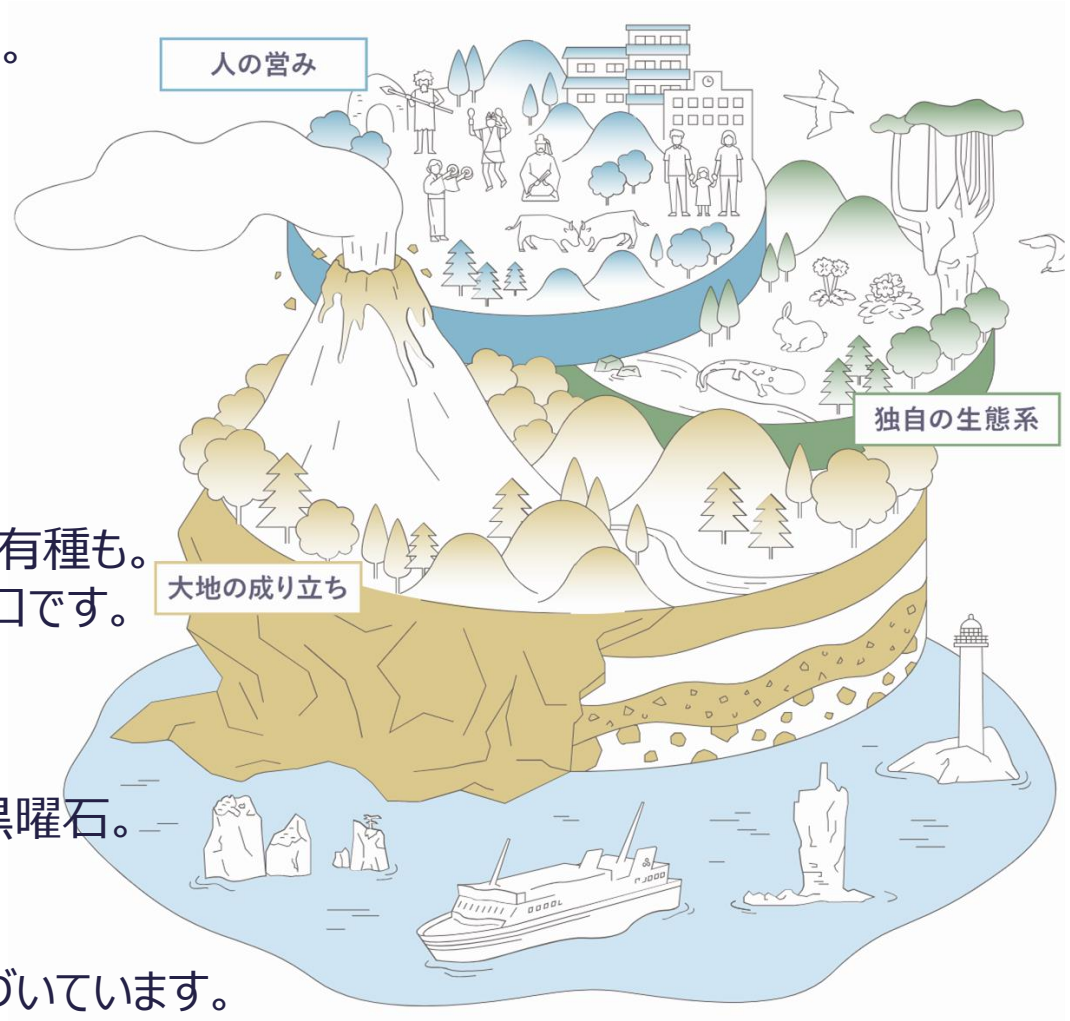
大地と火山が活動した“足跡”である岩石。
断崖や奇岩の絶景ができた理由。
さまざまな角度から、
大地の成り立ちに触れられます。

独自の生態系

南方と北方の動植物が、
なぜか同じ場所に暮らしている。
氷河期時代の生き残りや、隠岐だけの固有種も。
ここだけの”不思議”は地球の奇跡の入り口です。

人の営み

3万年前から産出され、全国に送られた黒曜石。
後醍醐天皇・後鳥羽上皇らのご配流。
北前船による文化交流。
今の暮らしの中にも、彩豊かな歴史が息づいています。



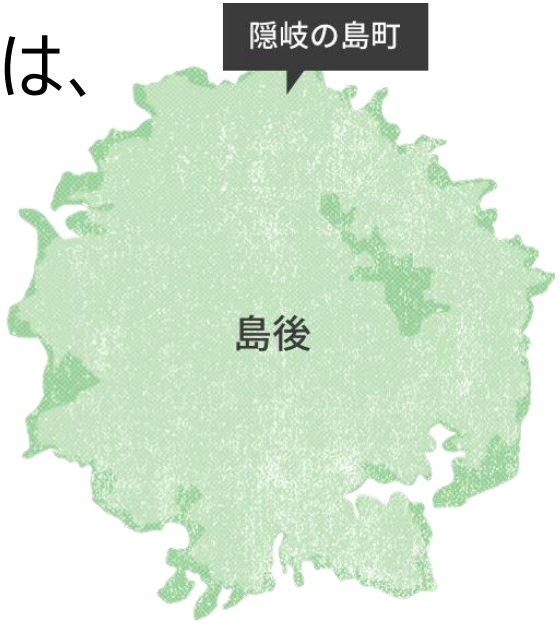
隠岐4島について

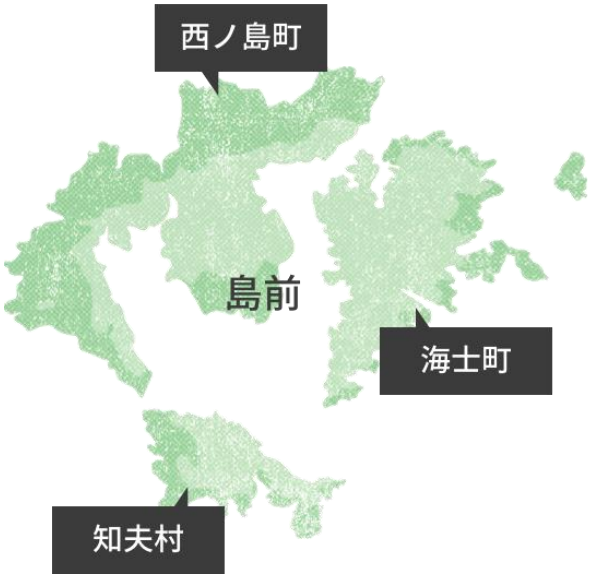
隠岐ユネスコ世界ジオパークの4つの有人島は、

南に位置する**島前（どうぜん）3島**と、

北に位置する**島後（どうご）1島**で

構成されています。





隠岐4島の特色

隠岐の島町（島後）神の木やどる、大きな島。

巨大な岩壁、堂々たる杉の木など、太古から息づく自然信仰。黒曜石が採られ、
各地へ運ばれていった歴史。
隠岐諸島でもっとも広大な島後は、古来多くの人や文化が交わってきた地。
異なる風習や方言などが共存し、多様な文化が育まれた。

西ノ島町（西ノ島）焼火と漁と絶景と。

島前でもっとも高い山に鎮座する焼火神社は、今もなお、内海に臨む人々のよりどころ。
外海にも近いため、古くから漁が盛んに行われ、荒波をものともしない西ノ島の気質のいしずえに
北西から吹き下ろす冬の風は、摩天崖などの絶景を大地に刻む。

海士町（中ノ島）古きを尊び、新しきをひらく。

海士町は、地形がもたらす恩恵を巧みに生かしてきた。田畑を耕し、
後鳥羽院を慕い、来る者を受け入れる。
歴史あるものを大切にしながらも、新しい可能性をひらき、チャレンジをいとわない。
それが、めぐり続けるこの島のあり方だ。

知夫村（知夫里島）歴史の悠然。地球の牧歌。

知夫里島は、隠岐のなかでもっとも小さな島だからこそ、
雄大な自然や、古来の伝承が大切に残されている。
「牧畑」の姿をとどめる放牧地、荒々しい赤壁、古墳群、島独自の一宮神社。
知夫里の景色は、悠久の歴史を今に伝えている。